

第6回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

1 開催日時 平成25年2月20日(水) 午後3時00分から午後4時30分まで

2 開催場所 ツインメッセ静岡中央棟4階 406・407 会議室

3 出席者 【委員】

二渡委員、本多委員、太田委員、実石委員、山梨委員、秋元委員、内海委員、藤田委員、松永委員(欠席 中村委員、杉山委員、鶴田委員)

【事務局】

三輪地域産業課長、吉川統括、河合統括、頭師副主幹、佐藤副主幹、山田主任主事、澤野主任主事、近藤主事

4 傍聴者 一般傍聴者 なし、新聞記者 なし

5 開 会 三輪地域産業課長

6 あいさつ 二渡会長

皆様、お忙しい中お集りいただきまして、ありがとうございます。本日は、基本計画掲載事業の進捗管理と次年度における各部会の在り方を中心に審議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。審議に入る前に、日頃、感じていることについて、若干お話をさせていただきます。昨年末の政権交代以降、円安や株価の上昇などから経済情勢の潮目に変化が生じてきたように思えますが、皆様いかがでしょうか。経済は気からと言われますが、国民の経済に対する気が変わったということではないかと感じています。このような気の変化をもとに、今後の実態経済の向上に期待を寄せていきたいとも考えています。それから、先日、アメリカのオバマ大統領が2期目の就任にあたっての一般教書において、最初に言われたことが製造業の復権と強化でありました。アメリカの製造業は、一時、多くの企業が海外に進出したため、国内に空洞化を生じさせ、混沌とした時期があった訳ですが、ここに来て、そのような企業が国内回帰に振れ始めているようであります。これは、国内における膨大な石油資源の埋蔵に加え、新たなエネルギー資源の開発に目途が立ってきた状況を背景としているようであります。オバマ大統領は、これに企業の誘致を含めて、米国製造業の復権と強化を強調し、高らかに演説されておりました。日本の製造業に携わった者の一人として、また、日本国民の一人として、あのような力強いオバマ大統領の一般教書を聴き、容易なことではないなと考えさせられました。一方、我々が取り組んでいるものづくり審議会については、本市製造業の振興発展を議論している訳であります。米国製造業の大転換期に関わるオバマ大統領の演説を聴けば、我々としても真摯に本市製造業に関する議論を尽くさなければならないという責任を再度認識した次第であります。それから、部会の在り方に関しまして、皆様からご意見をいただいたところでありますが、基本的な認識を手短にお話したいと思います。まず、部会の運営に際しましては、審議会、部会、そして、事務局という立場がありますが、部会の役割を簡潔に申し上げますと、事業等に関わる詳細事項の検討を審議会の開催によって執り行おうとすることは、簡単なことではないため、それらを6つの部会に細分化して機動的に議論を進めるとともに、地域産業課が担当する事業に対して、アドバイ

ス等の支援を行うというものであります。要するに、各部会は地域産業課のサポーターとしての役割を持った任意の組織体ということが言える訳であります。ですから、部会からは事務局に対して、各種のアドバイスをはじめ、意見や要請等を行っても良いと思いますし、逆に事務局からは、何らかの検討事案に対して協議をお願いし、多様な意見を求めること等も想定されるかと思われれます。このことから、事務局は積極的に部会の活用を図り、部会の持つサポーター機能を最大限に引き出すことを思案しなければいけないと思います。一方、部会の方では、事務局から提示された事案を受け止め、誘掖と自彊の双方を念頭に置きながら、行政を応援する審議会のもとに組織された部会として、正直に真剣に議論を重ねて具申することに努めていただければと思う次第であります。次年度における部会の在り方については、前述した基本的な部会の役割を踏まえるとともに、今年度の部会運営の振り返りを含め、積極的な部会運営に努めていただければ、審議会の会長として非常に嬉しい限りであります。是非、よろしく願いいたします。それでは、審議に入る前に、会議の傍聴及び公開について、確認させていただきます。事務局、ご説明をお願いします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

静岡市では、附属機関の設置及び運営に関する指針に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。今回の会議につきましては、非公開事由となる情報は含まれておりませんので、公開としてよいか、皆様にお尋ねいたしたいと思います。

【二渡会長】

皆様、いかがでしょうか。公開としてよいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

それでは、公開として進めていきたいと思います。その後のことがありましたら、引き続いて事務局から説明を加えてください。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

審議の経過によりまして、非公開とすべき事項が生じましたら、その都度、その旨をご決定いただくこととなりますので、よろしく願いいたします。また、会議録についても公開の手続きを踏むこととなりますので、事務局で会議録を作成した後、二渡会長ともう一人の委員の方にご署名をいただきたいと思います。本日の会議録署名人につきましては、太田委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【太田委員】 了承

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

現在のところ、傍聴される方はおられません。この後は、二渡会長に議事進行をお願いしたいと思います。

【二渡会長】

それでは、本日の議事の一つ目に移りたいと思います。全事業の進捗管理に関する審議会委員の意見及び対応などについて、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

一つ目の議事については、委員の皆様からのご意見などのご紹介とその点への対応をご説明させていただきます。それでは、ご意見が記載された資料をご覧ください。まず、基本計画全般にわたる実施及び進捗状況に関しては、6件のご意見をいただいております。

1点目、事業内容の質的向上であります。事業によって、進捗状況にかなりの差があるように感じました。進捗状況が芳しくないものに関しては、徹底した原因究明のもとで今後の施策を検討していただきたいと思っております。また、成果目標はあくまでも数値化された目安であるので、数値の達成とともに事業内容の質にも重きを置いて、今後の事業展開にあたってほしいと思っております。このご意見に関しましては、事業の成果目標の達成に向けて、PDCAサイクルを基本に原因の究明と改善に努めるよう関係各課に周知し、次年度において、事業の質的向上を図っていくよう対応していきます。

2点目、PDCAサイクルの推進については、事業毎に進捗状況は異なりますが、大切なことは今年度の結果を踏まえ、次年度にどのような取り組みに努めるのかという点を、具体的に検討し実施していくことだと思います。事業成果が出るまでに時間を要するものなどもあると思っておりますが、PDCAサイクルに基づいて具体的な取り組みを講じ、少しでも良い方向へ進展を図れるよう取り組んでほしいと思っております。2点目のご意見への対応としましては、前項と同様に、PDCAサイクルに基づいた事業の改善等に努めていきたいと考えております。

3点目、地域産業課担当22事業に関する部会制度の充実化であります。昨年からは部会制のもとで事業の進捗管理に取り組んできたように思いますが、部会が実質的に開催されず、進捗管理が機能的に進められていないように感じています。次年度における部会の在り方については、具体的なアウトプットを得るためにも、事業等の重点化に配慮した体制づくりを検討してほしいと思っております。このご意見への対応としては、次年度における部会制度の在り方については、今年度における試行的進捗管理の結果を受け、ご意見を踏まえながら検討していきたいと考えております。

4点目、事業の質的評価と聞き取り調査であります。取り組みの進捗状況について、可視化が図られたことは非常に重要なことだと考えています。ただし、大袈裟かもしれませんが、本管理票が市の事業評価にまで利用されることには反対であります。この点は、慎重な扱いを希望いたします。今後の管理について、少しでもいいので質的な視点からの検討も実施してみたいかと思っております。進捗管理票は主に量的視点で設定された目標に対する進捗状況を管理するものでありますが、取り組みの達成状況は質的視点からの検討も必要であり、例えば、単純に量的目標をクリアできなかったから駄目だと判断するのは評価の仕方としては不十分であると思っております。質的視点からの評価基準の設定については検討の余地があると考えますが、こうした視点から検討すれば担当部局として、より深い見解と知見を有することにつながると思っております。また、各事業について、市としての方針や考えの概要を公表することで、基本計画が設定した大目標の達成に近付くための議論の素材を、市民や事業者へ提供することにつながると思っております。質的視点からの検討のやり方の一つとして、事業を利用した主体からの感想を聞き、それを管理票に掲載するなどの方法で実施してみたいかと思っております。全ての事業で行うことは大きな負担になるので、各部会において一事業程度で実施してみたいかかと考えます。4点目のご意見に対しましては、各事業のフォローアップに関する聞き取りやアンケート調査の実施については、事業担当者などと効率的かつ具体的な手段等を協議検討した上で進めて

いきたいと考えております。

5点目、事業結果とその後の取り組みに関する方針であります。進捗管理表全体を眺めると、内容に差がある印象を受けました。基本計画の達成に向けた取り組みをどのように行ったか、今後どのように行っていくのかについて、内容及び今後の方向が明確にわかるものと、わからないものがあったように思えます。ただし、この点は記載の仕方の問題が多分に含まれるようにも思えるため、担当部局ごとの明確な方針のもとで、事業結果を考慮し、その後の実施に向けて取り組みを進めてほしいと考えています。また、次年度以降の進捗管理票の変化に期待しております。このご意見への対応については、ご意見を参考に関係各課へ周知するとともに、次年度以降における対応と進捗管理票の作成に活用を図るよう依頼していきます。

6点目、成果目標の示し方については、成果目標が3年間を単位として示されているものについて、今年度の成果をその目標値から見た進捗率で示して下さっていますが、事業によっては、単年度で計画されており、それを3年間繰り返すようにとれる事業もあります。そのような事業の進捗率は、他の示し方の方がわかりやすい感じがしました。6点目のご意見については、今すぐに成果目標の設定を変更することは難しいため、ご意見を踏まえ、次期基本計画の策定に向けた改善課題として取り扱いたいと考えております。

次に、各種事業の進捗管理に関しましては、計12のご意見をお寄せいただいております。まず、1点目、事業1企業と大学等との就職に関する情報交換の促進については、次年度から、どのように参加数を増やしていくのが重要になると思いますので、今回のアンケート結果に基づいて、具体的な対応策を講じてほしいと思います。また、今後は就職指導者を通して、学生がどのような情報を求めているのかを事前に把握し、企業側へ伝えることで、より中身の充実した情報交換の場に仕上げられるのではないかと思います。このご意見への対応としては、アンケート結果を反映し、県内外の大学等へのPRや対象企業の範囲拡大などを図り、成果目標の達成に向けて努めたいと考えております。

2点目、事業4理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討については、事業開始初年度として、市内及び静岡市周辺の関連大学との関係構築は、最初のステップとしての取り組みとして評価したい。今後は、地元産業界と関連大学との関係性を強化するとともに、誘致までの間における代替機能について、その関係構築の中でどのような対処を図っていくのかという点にも検討の視野を広げてほしいと思います。2点目のご意見については、次年度において、ご意見のとおり、事業の進展を図りたいと考えております。ついては、今年度以上に審議会委員兼部会員の皆様にご理解ご協力をお願いしたいと考えております。

3点目、事業11地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進については、静岡市の玄関口において、地場産品を展示し、初年度にイベントを数多く開催したことは大きな結果であると思います。今後、静岡駅付近の来客減少の問題に影響を受けることなく、来場者を増やしていくために、他の店舗での特設展示などをはじめ、駿府楽市のイベント告知やPRを積極的に情報発信してほしいと思います。加えて、駿府楽市と駿府匠宿は、静岡市の地場産品にとって貴重な常設展示場であるとともに、即売所としての機能も併せ持っているため、特産工業協会として、今以上に積極的な活用方法を検討すべきであると思いますとのご意見をいただきました。これらのご意見への対応としては、ご意見を踏まえ、駿府楽市及び静岡特産工業協会とともに、効果的なPR方法等の検討を進めていきたいと考えております。

4点目、事業15専門家による相談については、量的な結果のみが掲載されていますが、支障のない範囲で、相談内容の概要や相談に来られた企業が直面する課題の傾向等の記載もあっていいのではないかと考えます。これらの中に市が直面する課題や政策のイノベーションを図る際のヒントが含まれ

ていると考えられるためであります。このご意見への対応としては、本事業のほか、類似した事業についても、ご意見のとおり、次年度から管理票を作成するよう努めていきたいと考えております。

5点目、事業18企業に向けたビジネスプラン策定等の支援についてであります。今月開催されたSOHOしずおかビジネスプランコンテスト最終審査会では、学生部門において、静岡の伝統工芸品とアイフォーンケースを組み合わせたプランが最優秀賞を受賞しました。コンテストに参加すること自体、普段話を聞く機会が少ない若者を含めた地場製品の宣伝になること、そして、その可能性を広めていく効果を含むものと考えますので、コンテストが周知されていないところへの告知を積極的に行ってほしいと思います。このご意見への対応としては、ご意見を担当課に周知し、積極的かつ効果的な広報活動の展開を実施するよう依頼したいと思います。

6点目、事業19創業者等の営業機会拡大のための各種事業の実施については、量的な結果のみが掲載されていますが、支障のない範囲で、相談内容の概要や相談に来られた企業が直面する課題の傾向等の記載もあっていいのではないかと考えます。これらの中に市が直面する課題や政策のイノベーションを図る際のヒントが含まれていると考えられるためであります。6点目のご意見への対応としては、本事業のほか、類似した事業についても、ご意見のとおり、次年度から管理票を作成するよう努めていきたいと考えております。

7点目、事業23異業種交流事業の推進については、このような形式で開催される講演会後の交流会について、以前行った市内事業者ヒアリングの中で、「参加している企業のレベルが低く一度参加しただけで辞めた」という指摘がありました。全ての企業にとって満足できる参加は難しいかもしれませんが、交流会のあり方については参加者の印象や感想を聞いてもいいのではないかと考えます。このご意見への対応としては、事業のフォローアップの観点から、担当課に確認し、未実施の場合には実施に向けて検討を試みるよう依頼したいと思います。

8点目、事業29アーティストとのコラボレーション支援推進については、まだまだ結果が出ないことは重々承知しておりますが、開発点数が0点で進捗率が0%という状況において、予算がどのように使徒されたのか教えてほしいと思います。このご意見に対しましては、当課地場産業担当からご報告申し上げます。

(事務局：頭師地域産業課副主幹)

この事業は、ニューウェーブしずおか創造事業と称するものでありまして、主に財団法人静岡産業振興協会が事業期間を2か年度と定めて取り組んでいるものであります。今年度は、デザイナーの募集からデザイン開発までを事業内容としておりまして、家具等に関する地元企業11社が参加して実施しております。今年度の予算額は約500万円を計上しており、本日は本年1月末現在の予算執行状況をご報告申し上げます。内訳としましては、プロデューサー1名の委託料として約100万円、1社当たりデザイナー1名とともに取り組んでいるため、11名のデザイナーへのデザイン委託料として約243万円、事業広報とデザイナーの募集に関するホームページの立ち上げ及びサーバーレンタル料などに約109万円、デザイナー応募に際しての説明会に約13万円、その他の消耗品や通信運搬費等に約10万円、合計475万円を用途しております。また、年度末までには若干の期間を残しておりますので、その間において、専門家を講師とした指導会の開催を予定しております。

【二渡会長】

開発点数が0点であっても、実際の進捗率は0%ではないという理解でいいでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

そのとおりであります。基本計画の成果目標を開発点数に設定したため、現時点での進捗率は、やむを得ず0%になるということでもあります。あくまでも、2か年度を終えた時点での成果目標として、皆様にはご理解をいただきたいと思っております。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

続いて、9点目、事業40 こどもクリエイティブタウンの整備については、本市地場産業に関するものづくり体験の充実を図ってほしいと思っております。施設を運営する指定管理者が県外企業であるため、若干の懸念を感じるものの、そのノウハウが本市に蓄積されるように体制づくり等に努めてほしいと思っております。また、昨年11月頃、館長が「ご協力をお願い」というご用件で竹組合に来訪され、職人の派遣依頼がありました。その際、参考まで駿府匠宿で行っている体験事業をお話しましたが、その後、何のお話もないままに開館されています。その点はどのようになっているのでしょうかのご意見をいただきました。このご意見への対応としては、ご意見を担当課に周知し、ものづくり体験のノウハウを本市に残し、引き継いでいくように依頼するとともに、関係課に詳細を確認いたします。

10点目、事業41 高校生のインターンシップ事業であります。高校生へのインターンシップの普及は、職業意識を高めるなどの観点から中学生以上の年代層にとりまして、非常に重要な意味合いを持つものと思われまます。今後も、積極的に事業の展開を図ってほしいと思っております。このご意見への対応としては、ご意見を担当課に周知し、今後の事業展開の充実化を図るよう依頼いたします。

11点目、事業46 首都圏におけるプロモーションの強化(ホビーのまち)であります。会場で実施した有効回答数600人のアンケート結果からは、「プラモデル展をもっとたくさん見たい」と回答された方が487人(81.2%)に上っています。このことは、静岡市のプラモデルに魅力を感じるとともに、多くの集客を見込める静岡市の素材の一つであると考えられます。今後は、プラモデル展示を中心に静岡市の特産品等を県外に広めていく機会を増やしていただくことを期待したいと思っております。関係する協力団体と十分に検討を重ねて、静岡市のより良いプロモーションの場に育て上げてほしいと思っております。このご意見への対応としては、アンケート結果等に基づき、展示スペースとの兼ね合いを図りながら、展示する模型の質と量を検討していきます。また、会場で配布するパンフレットの充実と模型の販売についても、静岡模型協同組合と検討を進めていきます。

12点目、数値目標が設けられていない事業であります。具体的に数値目標が設定されていない事業について、数値に反映できない取り組みがあった場合には、その旨を記載して管理票を仕上げた方がよいと思っております。その点について、事業結果を見れば、進捗の程度に関して、ある程度の推測が立ちます。このように、当該年度の取り組みを簡潔明瞭に示しておくことは、非常に大切なことと思えます。このご意見への対応としては、進捗管理票の作成について、ご意見のとおり改善を図ります。

最後に、その他の感想を2点ご紹介いたします。1点目、今後における各種事業進捗管理票の取り扱いについてであります。各事業の成果目標に対する進捗率が数多く記載されている管理票は、どちらかと言えば、行政の事務執行上の資料としての性格が強く、ものづくり審議会として進捗管理を進める上では、何か別のかたちがあるように思えます。従って、部会制度の在り方と並行して、管理票の取り扱いについても検討を加えてほしいと思っております。これに対しましては、今後、ものづくり審議会において、部会の在り方と合わせて、具体的な進捗管理の対象が明確になれば、情報提供の意味合いから進捗管理票を参考資料として定期的にお示しする程度にとどめたいと考えております。

2点目、地元産木材家具に関する事業提案であります。事業の進捗管理について、特段の意見はありませんが、ものづくり産業振興基本計画の事業展開に関して1点だけお願いしたいと考えておりま

す。今後、家具工業組合としては、地産地消を目指しながら、「静岡ならでは」を特徴付けるために、県産材の活用による家具づくりを1テーマとして掲げる予定であります。ついては、基本計画の事業展開に際して、どこかの事業と関連付けながら、取り上げていただけるとありがたいと思っております。これに対しましては、今後、地場産業や伝統工芸などに関する事業において、どのような関わり合いが望ましいのかという視点から事業担当者を交えて検討を重ねていきたいと考えております。

引き続き、進捗管理実施結果の概要をご説明申し上げます。事業毎に単年度、あるいは計画期間をもとに、数値等を含めた成果目標を設定して事業に取り組んだところ、個々の事業でばらつきや不十分な点などが散見されます。それでも、計画初年度における総体的な取り組みとしては、次年度以降の進捗に寄与する結果を得られたのではないかと考えております。今後は、先ほどご紹介した委員の皆様のご意見等を踏まえるとともに、成果目標への到達と更なる達成に向けた事業展開に努めていきたいと考えております。また、今年度の進捗管理では、地域産業課が担当する22事業に対しまして、審議会の皆様のご理解ご協力のもと、6つの部会で進捗管理を進めてまいりました。この間、それぞれの事業担当者と部会担当者が、委員の皆様方と連携を図り、これまで以上の取り組みを事業に反映しようと努めてまいりましたが、残念ながら、総じて順調な推移を見せていない部分も確認されたのではないかと考えております。この点については、次の議事で皆様に改めてご検討をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。また、基本計画に登載された事業ではないものの、本市の産業振興に顕著な功績が認められる産業功労表彰受賞者を、この審議会から2名輩出し、地元新聞や広報紙を通じて、広く市民等に周知できたことは、本市のものづくり産業への興味関心と理解促進という、基本計画の取り組みに一定の貢献を果たす出来事であったと考えております。なお、進捗管理実施結果に記載しました市議会への報告であります。ものづくり基本計画と同様に報告義務を持つ農業政策課担当の茶どころ日本一計画との整合を図る観点から、市議会への報告を3月から6月に変更することも、今後の進捗具合を加味し、柔軟な対応を図っていきたいと考えております。

【二渡会長】

ありがとうございました。只今、事務局からのご説明に対しまして、ご意見などがありましたら、ご発言をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

皆様からお寄せいただきましたご意見等につきましては、次年度における進捗管理に資するため、事業を担当する関係各課に周知を図っていききたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【二渡会長】

皆様、事務局からの説明のとおり、関係各課に周知を図っていくことでよろしいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

それでは、次の議事に移ります。次年度における地域産業課担当事業の部会運営について、事務局からの説明を求めます。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

今年度における地域産業課担当事業の進捗管理につきまして、審議会のご理解ご協力を深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。事務局としましては、次年度におきましても、実施形態はともあれ、今年度と同様に審議会のご理解ご協力のもとで、事業等の進捗管理を進めていければと考えております。本日、この場で、次年度の部会運営に関する方針等をお決めいただくことは困難かと思われますので、まずは、部会運営に関する意見提出のお願いにつきましてご説明を申し上げ、新年度当初にその結論を取りまとめていきたいと考えております。それでは、依頼文とご意見提出用の書式をご覧ください。

【本多副会長】

今年度の部会運営は、我々部会員が先頭に立って議論をリードするべきものか、或いは、事務局からの指示等を待ってから動き出せばよいのか、検討事案に取り組むきっかけが非常に曖昧であったように思えます。私も、伝統工芸創造部会の部会長として、率先して動かなければならない立場にあったのではないかと、多々反省しております。本日、皆様と議論させていただく中では、そのように懸念される点が明確になるかと思っておりますので、部会審議に向けた動きやすさなど、十分納得して取り組める状況を得たいと思っております。恐らく、このように考えているのは私だけでなく、ここにお集まりの皆様も同様のことをお考えではないでしょうか。

【二渡会長】

今、本多副会長からお話をいただきましたが、実石委員におかれてはいかがでしょう。

【実石委員】

全く同感ですね。自ら動くのか、依頼があって動くのか、どのようなかたちで関わっていけばよいのか、正直判断に迷うところが多分にあったように思えます。どちらかと言えば、受け身の傾向が強かったとも感じていますので、今後、どのように進めていくのかという点の定義をお示しいただければ、動きやすくなるように思いますが。

【二渡会長】

やはり、審議会を基本とした部会ということですので、何か諮問のような形式を経て依頼されれば、部会員も相応に動くことができたように思えます。それでは、山梨委員はいかがだったでしょうか。

【山梨委員】

皆様のご意見と同じような思いがあります。何か投げ掛けられても、どこまで踏み込んでお話をすれば良いのかという点も懸念していたところでもあります。具体的な事案を示していただく中でアドバイス等を述べれば良いのかとも悩みましたし、元々の部会の立ち位置を明確にしておく必要があるように思えます。

【二渡会長】

ほぼ皆さん同じようなご意見かと思えます。太田委員は、いかがでしょうか。

【太田委員】

部会の位置付けについては、皆さんと同様の印象を持っております。また、部会を通じて得た情報をどのように取り扱えばいいのかという点も悩みました。北九州市の調査をまとめる中에서도出てきたのですが、例えば、成果目標にセミナーの開催回数が設定されている中、その回数が具体的にどのような意味合いを持っているのかと戸惑う場面がありました。もう少し話を進めるのであれば、部会ではその辺りを含めて議論しても構わないものなのかとも感じました。さらに、困難なことでもありますが、成果目標に向かう経路を議論していくことに意味合いがあるようにも思えました。ただ、このような部会を通じた協議は、貴重な機会であると考えますし、だからこそ、思い悩むことも多かったのではないかと考えております。

【二渡会長】

そうですね。松永委員はいかがでしょう。

【松永委員】

私は事務局から問われた内容に対して、事務局だけに返答していました。本多副会長の言われたような部会の位置付けなどを余り考えずに回答していたように思います。ただ、通常、施策が終了した時点で意見を述べる機会は比較的あるように思えますが、現在進行形の中で部会を通じて意見を発言できる機会は非常に良かったと感じています。さらに言えば、皆さんと同様に、もう少し部会の位置付け等が明確になれば、意見交換も活発化するのではないのでしょうか。

【二渡会長】

皆さんのご意見は、概ね同じような内容でありますね。藤田委員、いかがでしょうか。

【藤田委員】

私も同様の印象を持っておりました。

【二渡会長】

皆さん共通の認識をお持ちですね。部会というものが、どのような位置付けや立場で、いかに取り組んでいくべきなのか、曖昧さは否めない状況であったように思えます。部会は、審議会のもとで構成されていますので、基本的には尋ねられたことに対して見解を明らかにするという受け身の立ち位置にあるかと思えます。ただ、受け身とは異なる側面も部会は持ち合わせていると思いますので、その辺りのお話を若干させていただきます。私は調査研究部会の部会長として、事務担当に大学の学長へのアポイントを取るようにと指示を出し、事務担当と一緒に出掛けるなどして取り組んできました。ですから、皆さんも事務担当に担当事業に関する調査依頼や要望などを率直にお伝えし、事務担当とともに事業の進捗を図ってもいいのではないかと感じています。例えば、行政は地場産業に関連した取り組みを進めようとする中、業界の意向等を事前に確認したいとした場合、行政だけでは思うように取り組めない部分もあろうかと思えます。そのようなときに、部会に所属する皆さんが行政を応援する立場から、意向の確認や調整を図るなど、我々でなければ取り組めない部分が当然あろうかと思えます。このようなことから、次年度における部会運営に関しましては、余り型にはまらずに、部会長、部会員、事務担当の間で相互に、自由に意見交換を行うことでいいのではないかと感じますが。また、部会制度を創設したことには、

ものづくり基本計画の策定とその実行に伴い、非常に意義深い側面を併せ持っているものと認識しておりますので、次年度における事務担当との関係については、自由闊達のもと、お互いに推し進めていくことを基本的な姿勢として、部会による取り組みの進展を図っていくことでよいのではないのでしょうか。その点、皆様、いかがでしょうか。

【各委員】 了承

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

只今、次年度における部会運営の基本的な位置付け等につきまして、取りまとめをいただきまして、誠にありがとうございました。具体的な運営方法なども含めまして、依頼文に添付しました書式により、4月15日までに私のところへメールでご提出をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【二渡会長】

先ほど、部会運営に関して皆さんから概ね共通したご意見等をいただいたところで、次年度における部会運営について、一定の見解が示されたように思いますが、事務局としては、改めてご意見を募りたいということでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

委員の皆様が示された基本的な姿勢のもとで、具体的な部会運営をどのように取り扱うのかという点などに関しまして、ご意見をお寄せいただきたいと考えております。

【二渡会長】

意見の提出に伴う依頼文の説明に関して、6つの部会を2つの部会に削減するなどの例文がありました。苦労して創設した意義ある部会をわざわざ減らすことはないと思いますが、要するに、重点的に議論すべき部会は開催回数を重ねればよいし、それなりの運営で足る部会は相応の回数でも構わないと思いますけどね。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

会長が言われることは、そのとおりであります。加えて、事務局としましては、基本計画策定案をご検討いただき、その後、それをそのまま市として策定させていただいた中で、事業の進捗管理を進めていくために、皆様に当課22事業の部会をご提示し、現在までその任にあたっていたという思いがあります。このことから、次年度においては、皆様の具体的なご意向等を反映した上で、部会による進捗管理を推し進めていきたいと考えておりますので、率直なご意見等をお寄せいただければということでもあります。

【二渡会長】

それでは、事務局にお願いがあります。進捗管理票に記載された成果目標等に関して、定性的、或いは数値的な事項も含めて、非常に評価を行いにくい箇所が見受けられます。この辺りについては、正確な表現を用いなければ、評価そのものを問われかねないことも懸念しなければならないと思います。従いまして、今申し上げた点については、部会のご意見を聴いて、妥当なところ

で評価に取り組むことを検討してほしいと思います。是非とも、次年度における部会運営については、事務担当、部会長、部会員がそれぞれ連絡を取り合い、評価への責任を意識しながら進捗管理にあたってほしいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務局としましても、よろしくお願いいたします。

【本多副会長】

進捗管理票は詳細な事項が記載されており、このような事務に不慣れな私にとっては、非常に分かりにくい構成になっていると感じています。このことから、基本計画に登載された全 49 事業の全ての進捗管理を我々だけで取り組むには、かなりの無理が生じてくるものと思われます。ですから、事業の進捗管理については、地域産業課が担当する 22 事業に限定することに加え、各部会に所属する部会員が、その所属先の 3～5 事業を対象に取り組む方向を基本的な考え方として取りまとめてほしいと思います。

【二渡会長】

本多副会長のご指摘は、もったいなことと思います。例えば、ある事業の進捗管理票には、ものづくり基本計画の位置付けのほか、総合計画や産業振興プランの位置付けも追記されているため、管理票を見る立場からすれば、大変複雑なものとして困惑を否めません。これは、上位計画等との整合を意味付けしなければならない行政内部での位置付けであり、その内部資料としての性格が強く表れております。我々は、ものづくり審議会ですから、その評価等に責任があるとするれば、ものづくり基本計画の位置付けのもとだけにあると考えられます。この辺りの認識を新たにして、進捗管理に取り組む必要があるように思えます。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

承知しました。その点を踏まえた対応をお願いいたします。

【二渡会長】

要するに、安易に評価を行うのではなく、疑義などが生じた場合には、部会と事務担当の相互で協議を重ねて結論を導き出していくという方向性や姿勢を持った対応を、今後お願いしたいということであります。それから、本日の議事はこれで終了することになりますが、事務局から事務連絡がありましたらお願いします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務連絡としては、2点あります。まず、1点目ではありますが、来る3月5日に静岡商工会議所の製造業部会において、ものづくり基本計画の概要と静岡大学イノベーション社会連携推進機構に関して、ご説明する機会を得ました。連携推進機構については、工学部のある浜松キャンパスの知見等を静岡キャンパスで得られる仕組みのもと、是非とも静岡市の事業者における技術相談や商品開発の場面で積極的な活用を図ってほしいという大学側からの依頼に基づいて、ご説明を行ってこようと考えております。また、この件に関連する新商品開発及び産業財産権等の当課助成事業についても、併せて周知を図っていきたいと思います。これら、大学等の研究機関と地

元事業の連携促進に関する取り組みは、ものづくり基本計画に基づいて実施するものであります。具体的には、事業 12 の全国規模等の見本市への出展助成強化事業、事業 20 の専門家の指導等による商品企画・開発等支援の拡充事業、そして、事業 21 の大学等研究機関への相談機会の拡充事業という 3 事業との関連性をもって、ご説明を行ってこようと考えております。さらに、大学側からは連携推進機構以外にも、4 月以降において、地元事業者に向けた支援を展開する予定であるとのお話をいただいております。

【二渡会長】

ここで簡単に補足をしておきます。調査研究部会の事業として、三輪課長とともに静岡大学をお訪ねした際のお話になりますが、皆様ご承知のとおり、静岡大学の工学部は浜松市に、また理学部は静岡市に位置しております。このような状況を踏まえ、昨今の学際的研究の進展への対応を図る静岡大学では、工学部と理学部のコーペレーションやコラボレーションの必要性などが高まっているものと考えられます。つまり、静岡大学としては理工という次元に及ぶ問題を目前にして、どのような対応を講じていくのかという課題を抱えている訳であります。そして、今申し上げた問題と課題に関して、4 月以降に対応策を打ち出していきたいという意向が大学側から示されております。また、そのことが我々にとって非常に望ましい方向であるとともに、大きな期待を寄せているというお話であります。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

2 点目としましては、本市伝統工芸品の海外販路開拓等に関するセミナーであります。これは、当課と日本貿易振興機構ジェトロの静岡貿易情報センターとのコラボレーション事業として取り組むものであります。概要としましては、伝統工芸品の海外販路開拓等に向けて、関係者にセミナー企画案に関しての意向を伺う通知を発送し、その結果を取りまとめ、セミナーを企画し開催していきたいと考えております。さらに、セミナー参加者の中から具体的に海外販路開拓を試みる方を募り、ジェトロの方々のご支援ご助言を受けながら、海外市場で実際に販売する伝統工芸品の開発等に取り組む予定であります。その際の新商品等の開発に伴い、伝統工芸の技能等では乗り越えられない部分について、静岡商工会議所の新産業開発振興機構に相談を投げ掛けさせていただき、機構に加盟する事業者の技術的支援のもとで、新しい本市ならではの伝統工芸品を創り出していければと考えております。また、この取り組みについても、ものづくり基本計画に基づいて実施するものであります。具体的には、事業 11 の地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進事業と事業 30 の新産業開発振興機構の活用に関する検討事業に関連を持たせつつ、実施していくものであります。今後、この取り組みの途中経過などについては、審議会でご報告させていただくとともに、皆様のご支援ご協力をお願いできればと考えております。

【二渡会長】

本多副会長、伝統工芸品の海外販路開拓を念頭に置いた新商品の開発ですが、良い取り組みのように思えますが。

【本多副会長】

以前から会長にお話しをいただいている内容であろうかと思ひますし、私が部会長を務める伝統工芸創造部会に直結した事業であるので、伝統工芸品の開発に向けて、その認識を新たにして

おります。

【二渡会長】

すでに、伝統工芸創造部会がある訳ですから、そちらに投げ掛けながら、今後の対応を図ってみてはどうでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

今後、ご相談を掛けさせていただければと思います。

【本多副会長】

セミナーの実施スケジュールを見ますと、セミナーの対象となる伝統工芸従事者のリストを作成したようですが、現時点では案内通知を発送されたのでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

1月末に通知文書を発送しております。現状では、セミナーの開催内容に関する要望等が記載された返信文書が当課に届き始めております。

【二渡会長】

今後、静岡市の新しい伝統工芸品を創り上げていくことになろうかと思っておりますので、その過程での対応等に関しては、伝統工芸創造部会に意見等を求め、より良い成果を生み出していただけるよう、事務局と部会が十分なコラボレーションのもとで取り組みを進めていってほしいと思います。部会長の本多副会長にも、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【本多副会長】

よくわかりました。よろしくお願ひします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。事務連絡は、以上の2点で終了になります。

【二渡会長】

部会のお話が若干出ましたので、参考まで私が所属する調査研究部会の取り組みに関しまして、簡単に情報提供したいと思います。先ほど、静岡大学の関係をお話しましたが、同様に静岡県立大学にも訪問し、学長と意見交換などをしてまいりました。県立大学には元々工学部が無いので、そこに工学部の新設をお願いしても、困難な結果になることは見えているように思ひます。ただ、県立大学としましても、お茶を中心とした研究活動や地域とのコラボレーション等を通じて、大学間等でのイニシアティブを導き出そうと努力しています。このような県立大学の取り組みについては、お茶と地場産業との関連性の中で、その関わりを築こうとしていますので、我々ものづくり審議会と行政においては、その部分に対して積極的な姿勢で臨み、県立大学が推し進めるコラボレーションに忠えていかなければならないと思ひます。つまり、大学に対して要求を出すばかりでなく、大学が地域や地場産業との関わりを持とうとする自発的な投げ掛けについては、我々

も呼応し、ともに歩みを進めていくことが大切ではないかと考えますし、具体的な仕掛けを審議会等で考え、しっかりと真摯にお返しすることが、我々の重要な役割であると思います。それから、大学関連で言えば、静岡理科大学にも訪問し、学長と理事長にお会いして、本市に工学部に関する機能を新たに設けていただきたいという願いを率直に申し上げてあります。ただ、学部の創設は多様な条件が整理整頓されて初めて取り組めることでありますので、まずは、マーケットリサーチ等々の前提作業などを行政とともに、前向きに進めていくという基本的な合意をいただいております。今後は、このような合意に基づいて、静岡理科大学との間でタスクホースをつくり、時間を要しながらも、本市への工学部新設に向けたビジネスモデルを関係者間で議論していきたいと思っております。現状においては、静岡理科大学との間で、そのスタートラインに立つことが出来たという段階ではなかろうかと考えております。

【二渡会長】

皆様から、何かありますでしょうか。

【太田委員】

製造業部会と静岡大学イノベーション社会連携推進機構との連携促進について、その取り組みに関する最終的な責任の所在は、どの機関にあるのでしょうか。地域産業課が、最後まで面倒をみていくということなのでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

最終的な責任とは、どのようなことなのでしょうか。

【二渡会長】

元々は、地元の中小企業が技術相談や商品開発等に関して、どこの大学のどの窓口に掲げ掛けたらいいのか分からないということから出発していると思います。このような状態は、市役所でも静岡商工会議所でも、多数の課や担当があって、何をどこに相談していいものかと戸惑いを生じさせているということでもあります。この連携促進の図を見る限り、組織全体の名称は記載されているものの、具体的な相談窓口となる部署が明記されていないために、どこに責任の所在があるのかという不明瞭さを正す意味合いから、太田委員が事務局にお尋ねになったのではないのでしょうか。

【山梨委員】

大学側は、産学官の連携に取り組みたいというお考えを確かに持たれていると思います。しかし、この図では、どこに何をどのように相談すれば良いのかという部分まで踏み込んで記載されていないため、かえって分かりにくいフローになっていると思います。要するに、企業が相談を試みる最初の第一歩というか、きっかけを上手に汲み取ることが出来るか否かという点に、大学等との連携促進が大きく左右されていくのではないかと思います。

【二渡会長】

静岡商工会議所では、新産業課と称する技術相談等を一手に引き受けるような相談窓口と大学などにつなぐ仕組みを設けていますので、そこに相談を持ち掛ければ、静岡大学との結び付きを

しっかり担ってくれます。ところが、静岡商工会議所に加入していない事業者のほか、蒲原や由比などの事業者にとっては、どこに相談して良いのか分からないことに加え、静岡大学と言われども、大学のどの部署等に相談を持ち掛ければよいのかと困惑してしまいます。結論を申し上げれば、そのような相談窓口は、市役所でしかなく、その部署を明確にお知らせしない限り、この連携促進は順調に推移しないように思えます。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

分かりました。ありがとうございます。

【太田委員】

産業政策分野の話題の一つに、このような連携促進に関連して、どの部門やどの機関が多忙を極めることになるのかと言いますと、その大半が市部局になっています。このようなこともあり、市部局に相談が持ち込まれても、そこから先の大学等に情報が伝わらないという状況が生じ、せっかくの連携促進も意味をなさなくなります。従いまして、この部分の取り扱いは慎重に検討された方が良いのではないかと思います。現在、北九州市の報告書を取りまとめているのですが、北九州市と静岡市を比較した場合、その規模に大きな開きがあり、現状の静岡市において、市部局がそのまま窓口機能を担うという前提で、この件を進めていきますと、思ってもみない状況に陥ることが危惧されるのではないかと推察いたします。このような連携促進に関する事例は、全国的に見ても数多く取り組まれていると思いますので、幾つかのものを検証した上で取り組まれてみてはいかがでしょうか。

【二渡会長】

要するに、事業者が抱えるニーズの全てに静岡大学が応えられるという内容ではなく、静岡大学が連携推進機構という機能を一つ有していることと、また、このような機能を通じて、地元企業と行政が結び付き、機能の積極的な活用を図ってほしいという大学側の思惑があるということだと思います。まずは、静岡市の製造業を考える上で、静岡商工会議所に加入する事業者を対象に、どこを窓口に定めるのかという点を最優先で検討された方が良いでしょう。その後、商工会議所に加入されていない事業者は、どのような対応を図ればいいのかという検討を段階的に踏んでいく必要があるのではないのでしょうか。このような地域との連携に関する大学の試みは、ある意味において、我々に向けられた課題であり、今、この場で議論して得ようとする結論が大学への対応そのものなのではないのでしょうか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

分かりました。ありがとうございます。

【松永委員】

私の技術者養成部会が担当する事業の中に、事業6の若手後継者の技術習得支援事業があります。部会の事務担当の方には、以前にもお伝えしたお話なのですが、技術を習得して終えるのではなく、その作品が売れることで、さらなる取り組みや技術習得への意欲が増していくように思えます。この前、榛原で曲げを用いたお弁当箱を製作する若手職人が、パリで活躍している様子をテレビ番組で拝見させていただきました。番組の中でも触れていましたが、特に若手の方々は

世界に目が向いているなという印象を持ちました。ですから、この講習を受講して修了した若手の方々に海外で販売する機会を与えてみるような、若手のやる気を刺激する施策も併せて検討してみたいかがでしょうか。伝統工芸品は、海外に出れば新商品でなくても、海外の方々にとっては、興味関心を引く商品の一つであると思いますので、是非とも、そのようなリンケージを視野に入れて事業展開を図ってほしいと思います。

(事務局：三輪地域産業課長)

松永委員の言われた点については、曲げの作品が欧州で注目を集め、テレビ番組等でも紹介され、現代における伝統工芸の活躍事例として承知しております。また、ご指摘の事業6若手後継者の技術習得支援事業の推進にあたりまして、事業8のクラフトマンサポート事業の拡充のほか、先ほどご紹介させていただきました伝統工芸品の海外販路開拓に関するセミナーを十分に関連付けまして、若手が後継者として育ち、意欲を持ち続けられる環境整備に努めていきたいと考えております。審議会の皆様には、そのような場面でご尽力をお願いすることもあろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【二渡会長】

今の松永委員のご意見に関連することとして、何か光輝く要素を有している個人、或いは企業に対しては、市場に結び付くような仕組みや産業の創出に向けた仕掛けという支援を積極的に施していきたいというお考えから発せられた見解だと思います。例えば、職人の世界はどちらかと言えば、個人主義を貫くスタイルが多いように思いますが、市場との距離があり、秀でた作品を創作していても、なかなか世に知れることは少ないのではないかと思います。仮に、その職人の作品に輝きを感じられるのであれば、市場との距離を縮め、つなげていくような支援を施し、一点の引き上げから業界の活性化などに結び付けていければ、結果的に良いのではないかと思います。関連事項として、静岡市の伝統工芸に携わるの方々について、どのようなポテンシャルを有しているのかという点からリストアップし、いかなる支援が施せるのかというところまで踏み込んで、是非とも伝統工芸創造部会で議論してほしいと思います。この件については、全国各地で優秀な職人を支援する制度のもとで、さまざまな取り組みが行われておりますので、その辺りの情報収集や支援の強化等を含めて、特に三輪課長と頭師副主幹に対応をお願いしたいと思います。

【松永委員】

それから、部会での議論に関することとして、今まで事務担当からの問い掛けなどに対しては、部会長をはじめ、他部会員の皆様に相談せず、事務担当へ一方的に自分の思うところをお返ししておりました。今後、部会と事務担当の連絡に関しては、情報の共有化等を念頭においたコンセンサスのようなものをご提示いただけますと非常に助かります。例えば、意見を出すときには、部会長をはじめ、関係者全員にメール配信をするなど、何らかのルールをご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

ありがとうございます。その点について、課内で相談させていただきます。

【二渡会長】

部会の在り方には、それぞれ曖昧な認識を持たれていたと思いますが、初年度の取り組みとしては、致し方ないところは確かにあろうかと思えます。今回、このように委員の皆様からさまざまなご意見が出された訳ですから、次年度にはそれらを活かした部会運営を事務局にはお願いしたいと思います。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

承知しました。ありがとうございます。

【二渡会長】

これで、審議検討を要する本日の事案は全て終了しましたが、その他に何かお伝えしておきたいことなどがありましたら、ご遠慮なくお願いいたします。

【本多副会長】

部会運営を考える上で、皆様のご意見等を参考として、さまざまな事柄に思いを巡らすことができました。現実の状況を思えば、事業を営みながら、部会が担当する事業や事案などを検討することとなりますので、どこまで取り組めるのか、また、どの程度の責任を担えるのかと若干の不安を覚えております。それから、私の業界は後継者問題を抱え、次の世代をどのように育成していけばいいのかと思案しているところでありますが、一方でネット環境の普及などにより、個人単位で仕事を受注して商品を製作し、ネットを販路の一つとしながら、商品を販売されている方も散見される時代になってきております。このような業界を取り巻く環境の変化がある中で、今後業界が後継者不足等の問題に、いかに対応を図っていけばよいのかと思悩むところであります。海外市場を考えた場合であります。8年ほど前に県などから助成金をいただいて、ヨーロッパの展示会に出展したことがあります。当時の状況をお話すれば、商品の付加価値は高かったのですが、それに伴って価格も高額となったため、結果として、売れ行きは良くありませんでした。また、現在と8年前では、マーケットの状況が異なり、市場でその付加価値が明確に認められれば、例え高価な商品でも売れるという実感を得つつあります。ですから、本日の事務連絡で海外販路開拓セミナーが紹介されておりましたが、本市の伝統工芸品の販路を模索する上では、非常に良い試みではないかと考えております。加えて、本市の伝統工芸8業種については、時代の変遷とともに、組織が脆弱化し、主に個人レベルで事業を営む方々が多数を占める状況にもありますので、このセミナーだけでなく、輝く逸品を製作する職人をどのように応援していけばよいのかという点に関しまして、今後の担当部会の課題と位置付け、真摯に議論を重ねていきたいと思っております。最後に、私は静岡特産工業組合の会長を任されておりますが、今申し上げた個人レベルの方々が多数加入されている中で、職人の支援と業界内の均衡をどのように図っていくのかという点についても、併せて思案していかなければならないという状況にあります。しかし、このような現状を少しでも改善し、本市の伝統工芸に進展が見られるように、微力ながら対応に努めていくつもりであります。

【二渡会長】

他の方々はどうでしょうか。特に無いようであれば、これで終了したいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：三輪地域産業課長)

本日、皆様にご審議いただいた結果を踏まえまして、次年度における進捗管理や部会運営を進めていきたいと思っております。これを持ちまして、本日のものづくり審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

本会議録は、平成25年2月20日開催の「第6回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長 _____

委 員 _____